



第2号様式

学校運営協議会実施報告書（兼）議事録

狛江市立狛江第四中学校長 佐伯 英徳

狛江市立狛江第五小学校長 細谷 俊太郎

狛江市立緑野小学校長 亀田 親子

会議	令和 <u>5</u> 年度第 <u>1</u> 回 <u>四</u> 中ゾーン学校運営協議会
実施日時	令和 <u>5</u> 年 <u>6</u> 月 <u>8</u> 日 <u>9</u> 時 <u>30</u> 分 ～ <u>11</u> 時 <u>40</u> 分
1 協議	
(1) 学校の現状報告	
五小：教育目標は、明るい子、考える子、強い子で、重点目標は考える子である。	
細谷	教育方針は、世界一通いたくなる学校とし、子供たちの2050年（30年後）を見据えた教育を進めている。そのために、何をするとよいか、子供たち、教職員と話している。課題は、いじめ防止と不登校児童への対策である。いじめについては、いじめの定義に基づく確実ないじめの認知を行い、教職員のいじめ認知の感度を高める。不登校については、子供の様子や声掛けなどを通して、未然防止対策を進め、子供たちの社会的な自立を目指す。
緑野	本校は、学校の主役は子供、学校教育の要は教職員、それを支えてくださるのは保護者・地域であると考え、チーム緑野として、みんなでみんなを育てていく学校を目指している。令和4年度からは、狛江市の研究協力校となり、研究テーマを「生命と人格・人権を尊重する態度の育成」として、安心・安全な学校づくりを進めている。令和6年1月26日に研究発表を実施する。研究は、教職員が一丸で子供たちの力を少しずつ伸ばしている。
亀田	
四中	学校教育目標は、昨年度に引き続き、自立、連帯、健全を掲げている。5月
佐伯	に実施した体育祭では、本校の伝統の友情の文字を復活させた。文字は、生徒が話し合い、様々なことができるようにしていくという思いを込め「CAN」とした。本校では、修学旅行、職場体験、狛江探検、合唱祭など行事を大切に、生きて働く力を育成している。行事は、精選してよりよいものにするよう今後も見直していく。課題は、不登校の生徒への支援である。担任を中心に当該生徒の心に寄り添った指導や居心地のよい環境づくりなどを進めている。また、本年度、本市の研究奨励校となり、研究テーマを「主体的に学習に取り組む生徒の育成」として令和6年2月15日に研究発表する。
(2) コミュニティ・スクール4中ゾーンの今後について	
佐伯	4中ゾーンの昨年度の取組に加え、これまでの取組以外にボランティア活動を行っている。4中ゾーンのよい連携を今後も進めていく。また、小中一貫教育の目標や伸ばしたい子どもの具体的な力、義務教育を修了したときの姿を再確認し、キャリア教育の推進などを共通認識した。
(3) 委員からの意見等	
・不登校の子供の居場所については、民間の取組を活用していくとよい。	
・学校だけが選択肢出なく、様々な所が受け止められるような社会にしたい。	
・外国籍の児童生徒や特別な配慮が必要な子供たちなどへの支援が重要である。	
・思いやりの心をもって様々な人と接することが大切である。	
・保育園でもいきしぶりがある。保育園としても注視していく。	
2	授業参観に関する事務連絡
3	全学級の授業参観